

出演者プロフィール

勝俣敬二 (Keiji Katsumata) フルート

米沢市に生まれる。日本大学藝術学部を卒業。1979年スイス政府推薦留学生としてパーゼル市立音楽大学に留学。スコラ・カントルムにて古楽フルート、グレゴリオ聖歌を学ぶ。スイスの芸術家資格ディプロムを取得。以来、国内とヨーロッパにて演奏活動中。クレモナ・サン・ミケーレアンサンブルを結成し、「天正少年遣欧使節と音楽」を研究。他に「慶長遣欧使節と音楽」、「米沢のキリシタン殉教と音楽」、「19世紀ジャポニズムとフランス音楽」、「グレゴリオ聖歌から学ぶ旋法と調性」の研究で知られる。母校日大藝術学部講師として「調性と演奏論」を講義。30余年に亘り「東京バッハ・カンタータアンサンブル」のメンバー。「聖アンセルモ・グレゴリオ聖歌隊」、「グレゴリオ聖歌隊米沢」の指揮者。フルート・セミナリオ、米沢フルート音楽研究会を主宰し後進の指導にあたり、米沢市芸術文化協会特別賞を受賞。(一社)支倉常長日西文化協会正会員。

大谷美佐子 (Misako Otani) ヴァイオリン

東京藝術大学を卒業。90年ボストンにてR、トーンベルグP、ザソフスキーの両氏に師事。ロンジ音楽院でリサイタルを行う。その後も横浜、東京でリサイタルを行うなど、ソロ、室内楽で活動中。故・井上武雄、浦川宣也、瀬川光子の各氏に師事。「イリス弦楽四重奏団」「Ensemble Vita」、「東京バッハ・カンタータアンサンブル」メンバー。1987年米沢フルート音楽研究会定期演奏会〔米沢市民文化会館〕にゲスト出演。

李善銘 (Li Shanming) ヴィオラ

東京藝術大学を卒業。三輪長雄、白柳昇二、中塚良昭の各氏に師事。同大学講師を経て、名古屋フィルハーモニー交響楽団団員として活動。現在、「神戸バッハ合奏団」、「バッハ・クライス神戸」指揮者。「クレモナ・サン・ミケーレアンサンブル」メンバー。1977年「東京バッハ・カンタータアンサンブル」を創設し、現在代表者。名古屋芸術大学講師。1991年勝俣敬二フルート演奏会〔世紀ホール〕、1997年米沢フルート音楽研究会定期演奏会、米沢サロンコンサートにゲスト出演。

西澤央子 (Nakako Nishizawa) チェロ

東京藝術大学附属音楽高校を経て同大学器学科を卒業。又、同大学別科にてオルガンで鈴木雅明氏に師事。現在、チェロ、ヴィオローネでの通奏低音、室内楽奏者として活動中。又、ハルモニウム奏者としても数多くのオーケストラと共演している。「東京バッハ・カンタータアンサンブル」メンバー。東京学芸大学非常勤講師。1991年勝俣敬二フルート演奏会〔世紀ホール〕にゲスト出演。

押切圭子 (Keiko Oshikiri) 朗読「モーツァルトの手紙」より

これまで勝俣敬二氏の数多くの音楽シーンに朗読で出演。同時にグレゴリオ聖歌を師事。現在、山形新聞の朗読コラム「ささやき談話室」を担当。

米沢フルート音楽研究会

1982年、スイス留学から帰国した米沢市出身のフルート奏者 勝俣敬二氏が開いたフルート教室を母体として創立した。以来 40 年に亘り後進の指導とアットホームで創造性豊かな活動を続けてきた。当初から深い知識〔古楽〕や歌うことの素晴らしさ〔グレゴリオ聖歌〕など西洋音楽の源泉を見つめて独自の音楽観を育んできた。活動内容は、入門者から専門の方まで月 1 ～ 3 回の個人レッスン、合奏、講座、季節の合宿、定期演奏会、海の日コンサート、地域ボランティアや海外音楽研修旅行〔これまで 1993 年米国、1995 年スイス、1997 年ポルトガルとスペイン、2000 年ポーランドとドイツ、2004 年オーストリーとチェコ、2007 年スイス、2010 年スイスとフランス、2013 年イタリア、2016 年スイスとドイツ〕を行った。スイス・レンク村での古楽講座は 4 回を数える。これまで、山形県民芸術祭優秀賞 2 回、同奨励賞、米沢市市民芸術祭優秀賞、同奨励賞、山形県社会音楽祭完戸杯 2 回、同奨励賞等を受賞。



●生徒募集のお知らせ!

米沢フルート音楽研究会のフルート教室と講座

～入門者から専門家まで～

主宰講師 勝俣敬二 阿部志穂(吹奏楽他) 客員講師 陸井鉄男
フルート教室直通 TEL0120-032574 TEL090-8584-0400
E-mail flauto_seminario@yahoo.co.jp
ブログ『風のセミナリオ』 https://blog.goo.ne.jp/f_seminario

●会員募集! グレゴリオ聖歌が米沢で学び、歌えます!

ヴォルフガング アマデウス

W.A.モーツァルト フルート四重奏曲全曲演奏会

～秋の午後、歴史の館で聴く雅な古楽器の音色～

演奏	フルート奏者・勝俣敬二 ヴァイオリン奏者・大谷美佐子 ヴィオラ奏者・李善銘 チェロ奏者・西澤央子
曲目	W.A. モーツァルト〔1756-1791〕 フルート四重奏曲 ト長調 K.285a ハ長調 K.285b ニ長調 K.285 イ長調 K.298
日時	令和4年(2022年)10月16日(日) 開場:午後2時30分 開演:午後3時
会場	米沢牛・山懐料理 吉亭 〒992-0039 山形県米沢市門東町1-3-46 tel 0238-23-1128



フルート奏者
勝俣敬二



ヴァイオリン奏者
大谷美佐子



ヴィオラ奏者
李善銘



チェロ奏者
西澤央子





朗読
押切圭子





主催 40周年記念演奏会実行委員会
共催 米沢フルート音楽研究会

後援: 米沢市教育委員会 (特非)米沢市芸術文化協会
(一社)支倉常長日西文化協会 米沢女性懇話会
協賛: 米沢牛・山懐料理 吉亭

●コロナ対策のお願い…演奏会では検温、手消毒、マスク、換気等のご協力をお願い致します。

 Program 

- 朗読 『モーツァルトの手紙』 ローマ
演奏 フルート四重奏曲 ト長調 Kv.285a
Andante / Tempo di Menuetto
- 朗読 『モーツァルトの手紙』 マンハイム
演奏 フルート四重奏曲 ハ長調 Kv.Anh.171 [285b]
Allegro / Thema Andantino / Var. I~IV,
Var.V[Adagio] ,Var.VI[Allegro]
- 朗読 『モーツァルトの手紙』 パリ
演奏 フルート四重奏曲 二長調 Kv.285
Allegro / Adagio / Rondeau
- 演奏 『魔笛』による二重奏曲 Kv.620 [編曲者不詳]
`魔法の響き 何たる強さ`ハ長調
`何とすばらしい響きだ`ト長調
グラスハーモニカの為のアダージョ ハ長調 KV.356
- 朗読 『モーツァルトの手紙』 パリ
演奏 フルート四重奏曲 イ長調 Kv.298
Thema Andante / Var.I~IV /
Menuetto / Rondeau Allegretto grazioso

 P a u s e  曲目について 

演奏上、それはパリのフランスバロック音楽との対比からだが、18世紀後半にオーストリー・ハプスブルグ文化圏に生まれ育ったモーツァルトのイタリアンの音楽性〔宗教性と歌謡性〕が今回は自分にとって新鮮だ。ザルツブルグを脱出?、フランス様式下のマンハイムを経てパリで過ごし、ウィーンに落ち着いた旅路の流れから、今回の演奏作品である4曲のフルート四重奏曲の時代背景が見える。音楽史では明らかではないが、同時代パリで活躍したフランソワ・ドヴィエンヌ〔1759-1803〕の存在とモーツァルトの作品と彼の作品の酷似については次の機会に採り上げたい。

『フルート四重奏曲ト長調』は、1777年12月から1778年2月に掛けてマンハイムで作曲された。出典の詳細がいささか不明なこともあるが、イタリアンカンタービレと Affect〔情念〕のある典雅なマンハイムの宮廷や社交の場を意識した音楽である。

『フルート四重奏曲ハ長調』は、同じ時期にマンハイムで作曲された。モーツァルトはハ長調の調性が似合うし特徴が活かされた冴えた面白い作品が多い。変奏曲は近いマンハイムの奏者たちを意識した作風になっている。

『フルート四重奏曲二長調』は、やはり同時期にマンハイムで作曲された。一連の作品は、オランダ人ド・ジャン〔東インド会社所属〕の依頼による。作品を演奏したであろうフルート奏者 J.B.ヴェンドリングは彼の師匠と伝えられている。二長調の調性は封建制や全体主義の体制の空気感を表出する。ロ短調の第二楽章はその精神性を語る。

『フルート四重奏曲イ長調』は、1786年の12月にウィーンで作曲されている。オペラ作曲に没頭した時期での作風が感じられる。イ長調は、唯一の神の存在と人間の神への犠牲の精神を求め、「愛の勝利」の喜びと「死」への苦しみを描く。

歌劇『魔笛』からの二重奏曲は他にもあるが、今回はよく知られた2曲〔ハ長調とト長調〕をフルートとヴァイオリンで奏でる。編曲とはいざれどもパロディ化することであり、ユーモアを気楽に楽しむ目的でなされることが多い。

『グラスハーモニカの為のアダージョハ長調』は、晩年の1791年にウィーンでグラスハーモニカの名手 M. キルヒゲスナーの為に作曲されている。

古楽器演奏では「調性」が重要なファクターとなる。それがモーツァルトからのメッセージを直に伝える入り口であるからである。 勝俣敬二